

# 目的意識・相手意識を高め、ICTを活用して協同的に学ぶパンフレットづくり

ーわが町の歴史とみどころを伝えようー

熊本市立五福小学校 教諭 西尾 環  
e-mail saibikan@gmail.com

キーワード：目的意識・相手意識、かかわり合い、県外との交流、国語と総合との関連、評価

## 1. 従来の課題

地域のよさについて調べたことを、ICTを活用してグループでまとめて伝えたり発信したりするという学習は、これまで多く行われてきた。その時常に課題となるのは、以下のようなことである。

- 1)協同的な学びが成立しているか。
  - 2)子ども一人一人についての力を評価できているか。
  - 3)目的意識や相手意識がどれだけ明確であったか。
- 以上のことが、ICT活用の工夫によってなされたかということ、常に検討しなければならない。

今回、6年生国語の単元として「町のよさを伝えるパンフレット作り」に取り組んだ。この実践において、上述の課題を解決すべく、自分なりに工夫したことを報告する。

## 2. 学校・学級の実態

五福小学校は、熊本市の中心部の歴史と伝統あふれる地域にある。学校と地域の交流も盛んである。一方でマンションが建ち並び人と人とかかわり合いが薄れつつある。私が担任する学級の24人の子どもたちは、素直で明るい、学力や心の健康度にそれぞれ課題があり、協同的な学びも成立しづらい現状だった。前学年の学習でコンピュータに触れた経験も少なかった。

本校のコンピュータ室には児童用PCが20台、OSはWindowsXPで、ソフトはキューブキッズ2が導入されている。デジタルテレビは学校に4台しかなく、本学級ではプロジェクター活用がほとんどである。

## 3 実践の目的・目標

### 3. 1 国語力を高め実感させるパンフレット作り

本実践の目的は、ICTを活用して協同的に学ぶ力を育成することである。それと同時に、国語の授業として実践する以上、一人一人の子どもに国語力を身に付けさせ、その学びを実感させることにある。そのためにも、目的意識や相手意識を明確に持たせる。

### 3. 2 県外の人向けのパンフレット作りと評価

目標は、子どもたちがコンピュータを使って県外の人とかかわり合いながら、グループで協力して「五福の町のパンフレット」を完成させ、発信することである。そして、国語の学習としての評価を行う中で、学ぶ意欲・情報活用力・表現力が高まることである。



写真1 出来上がったパンフレット6冊

## 4. 実践内容

### 4. 1 国語のねらいの明確化と単元のゴール設定

単元の導入時に、子どもたちに対し、国語での学習で付けたい力（何のためにこの学習をするのか）ということ、単元のゴールを明らかにし、学習への見通しを持たせた。

#### (1) 育てたい国語力

- 1)目的や相手に応じて情報を収集・整理する力
- 2)自分の考えを明確にする文章全体の構成力
- 3)資料の引用や写真・図の活用力
- 4)学ぶ意欲

#### (2) 総合的な学習と関連した単元とゴール設定

- 1)単元名「わが町の歴史とみどころを伝えよう」
- 2)ゴール・・・県外の方へ自分たちの町のよさを伝えるパンフレットを送り、感想をもらうこと。

### 4. 2 教師と協力者の連携のための SNS 活用

フェイスブックを活用し、パンフレット作りへの協力者を全国から募った。知り合いに協力を呼びかけたところ、北海道から九州まで7名の方が協力して下さることになった。教師・画家・NPO 理事と様々である。教師と協力者の連携を図るため、グループコーナーを作成してメールや画像・映像を共有化した。

### 4. 3 教材提示のソフトの活用と工夫

#### (1) 目的意識・相手意識を明確にする工夫

導入時に、教室において、プレゼンソフト(keynote)を使って教師が作成した全国の7名の顔写真と日本地図を組み合わせたスライドを見せた。「この方々があなたたちのパンフレット作りに興味を持ってくださっている。」と伝えたことで、子どもたちが「パンフレットで五福や熊本のよさを伝え、県外の人たちを熊本にきたいという気持ちにさせたい」という目的意識が明らかになった。また、相手の顔が見えたこと、どこに住



んでいるかがはっきりしたことで、「〇〇県の〇〇さんやその身近な人たちに送ろう」という相手意識を明確にした。

写真2 県外協力者(交流相手)の紹介スライド

#### (2) 制作への意欲を高める工夫

その後、他校の小学生が、キューブキッズ2を使って製作したパンフレットを見せた。写真をうまく活用していること、タイトルが魅力あること、リード文の存在、短い文章など多くのことに気付いた。実物と画像を提示したことで具体的なイメージが湧き、パンフレット作りへの意欲がさらに高まった。

#### 4. 4 協同的なパンフレット製作と評価

##### (1) 情報を活用するグループの学習と自己評価

総合的な学習の時間に「五福の歴史を知ろう」のテーマで6つのグループ(各4人)に分かれて調べていたので、パンフレット作りもそのグループを活用した。総合ではすでに課題を決めて地域の歴史的なよさをある程度調査していた。国語でパンフレット作りが新たな学習課題となったことで、特に何を伝えるといいか話し合いが行われ、情報ボードを活用しながら、情報の



写真3 教室の情報ボード(収集した写真、整理した付箋紙、県外交流相手からのメール)

##### (2) 協同的な製作と一人一人の作成

各グループごとに撮影した写真も見ながら、全体的な構想やレイアウトは班で話し合って決めていった。ただし、一人一人に国語力をつけるために、本文のページを一人で必ず1〜2ページ作成するようにした。どこを誰が担当するかをグループごとに話し合った。タイトルや目次も、得意な者、早く仕上がった者等各グループの判断に任せた。コンピュータは各グループに2台を割り当て、協力して作成した。自分たちで撮った写真を使えるようグループ別フォルダに画像を整理した。また、ネット上の画像著作権や、本や資料から書き抜く場合の「引用」について適宜学習の機会をもった。



写真4 コンピュータ室でパンフレット製作

#### 4. 5 児童と県外の方々の交流の工夫

##### (1) 相手の知りたいこと(メール)から内容を検討

各グループに県外の方を1名ずつ割り当て、挨拶のメールから交流を始めた。その際子ども側から「自分たちの地域のことで何か知りたいことはないですか」と尋ね、それに県外の方が答えるというやり取りを入れるようにした。その返事を見て子どもたちは「熊本有名なことも入れるべきだ。」と新たな課題へ目を向けたり「くまモンのことは北海道まで知られているのか。」と反応に驚いたりしていた。

##### (2) インターネットを活用し、県外の方から評価

児童が製作したパンフレットのデータを教師が添付して県外交流相手に送った。その際、教師がPDFファイルに変換して、県外協力者コーナーで協力者すべてが見られるようにした。

県外の方からは、メールだけでなく、パンフレットへ付箋紙を貼った画像によるアドバイスもあった。お褒めの言葉に児童は喜びながらも、助言を受けた部分を改善し、さらによりよいパンフレットにし、完成品

を再度送った。2学期になり、すべての協力者から来た返事を児童に伝えた。メールだけでなくpodcastという方法での感想もあり、それぞれが満足感を得た。

#### 5. 成果

##### 5. 1 生きて働くパンフレットの完成と満足感

各グループが目的意識・相手意識をはっきりと持ち、課題解決に向かって協同的に学び、パンフレットが完成したことがまず大きな成果。しかも、県外の方々のアドバイスで、歴史以外のことや熊本の特色等も付け加えられたパンフレットとなった。一人一人が作成したページもはっきりしていて評価もしやすい。

県外の協力者の中に、実際に五福の町を訪れてパンフレットを持って町を散策され、撮影したビデオを送ってくださった方もいらっしゃった。それを見て、児童はさらに大きな満足感を味わった。

##### 5. 2 国語力や協同的学びの向上

学習前後の児童の変容が見えた。

\*アンケート、教師観察、自己評価による(「そう思う」の人数)

・国語は好き(アンケート)	64%→92%
・書く学習は好き(アンケート)	64%→72%
・テーマに沿って書くことを収集する	52%→84%
・構成や効果を考えて文章を書く	44%→75%
・自分で課題を見つけられる	60%→80%
・グループ学習は好き(アンケート)	56%→96%
・授業でかかわり合いができています	52%→96%

国語や書く授業が好きになった理由として児童が多く選んだのは以下である。(複数回答可)

・友達とグループで学習した	(64%)
・コンピューターで作成したから	(64%)
・パンフレットを作ることが面白かった	(50%)
・地域や遠くの人と関わったから	(40%)
・地域のことを調べたから	(25%)

感想の中に「これまで受けた国語の授業で最高に楽しかった。」という声がいくつもあった。

##### 5. 3 地域の専門家と連携した発信

今回のパンフレット製作の途中段階において地域のホームページ制作会社の方にもアドバイスをいただいた。その縁がきっかけで地域のホームページの一角に子どもたちのパンフレットのコーナーを設けてくださった。(下記)これも容易にできたのではなく、商栄会の方々の厳密な審査(著作権や記事の信憑性、誤植等)を経てアップされた。これらの体験は、子どもたちにとって大きな学びの一つとなった。

<http://529furumachi.com/五福小学校児童が作る五福パンフレット/>

#### 6. 今後に向けて

今回の取り組みで従来の課題はそれなりに解決できた。今後はネットワークの活用について、学校全体あるいは地域と連携してよりよい方法を模索しながら実践していくことが大切だ。また、学校のICT機器や活用の環境を整えていかなければならない。

さらに、授業の中では、著作権や個人情報保護についてさらに子どもたちが正しく自主的に学ぶ手立てが必要である。